

四半期報告書

(第89期第1四半期)

アサガミ株式会社

四 半 期 報 告 書

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

	頁
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	3
3 【関係会社の状況】	3
4 【従業員の状況】	3
第2 【事業の状況】	4
1 【生産、受注及び販売の状況】	4
2 【事業等のリスク】	5
3 【経営上の重要な契約等】	5
4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	5
第3 【設備の状況】	7
第4 【提出会社の状況】	8
1 【株式等の状況】	8
2 【株価の推移】	9
3 【役員の状況】	9
第5 【経理の状況】	10
1 【四半期連結財務諸表】	11
2 【その他】	22
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	23

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成22年8月13日

【四半期会計期間】 第89期第1四半期(自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)

【会社名】 アサガミ株式会社

【英訳名】 ASAGAMI CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 木村 健一

【本店の所在の場所】 東京都千代田区大手町二丁目6番2号

【電話番号】 03-4288-3000 (代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員経理部長 北川 敏行

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区大手町二丁目6番2号

【電話番号】 03-4288-3000 (代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員経理部長 北川 敏行

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

連結経営指標等

回次	第88期 第1四半期連結累計 (会計)期間	第89期 第1四半期連結累計 (会計)期間	第88期
会計期間	自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日	自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日	自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日
売上高 (千円)	10,373,908	9,618,628	44,517,350
経常利益 (千円)	168,888	73,827	1,597,005
四半期(当期)純利益又は四半期 純損失(△) (千円)	4,125	△90,366	825,525
純資産額 (千円)	10,023,577	10,185,588	10,550,244
総資産額 (千円)	57,588,193	57,268,976	57,438,290
1株当たり純資産額 (円)	701.95	712.32	738.35
1株当たり四半期(当期)純利益 金額又は四半期純損失金額(△) (円)	0.29	△6.38	58.30
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	17.26	17.61	18.20
営業活動によるキャッシュ・ フロー (千円)	1,227,621	573,063	3,134,427
投資活動によるキャッシュ・ フロー (千円)	△342,089	△367,073	△2,068,626
財務活動によるキャッシュ・ フロー (千円)	△221,992	255,842	△87,610
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (千円)	3,454,737	4,230,254	3,769,073
従業員数 (名)	1,448	1,610	1,623

(注) 1 売上高には、消費税及び地方消費税(以下消費税等)は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式がないこと、また当第1四半期連結累計(会計)期間については1株当たり四半期純損失のため記載しておりません。

3 従業員数は、就業人員数を記載しております。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

3 【関係会社の状況】

当第1四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成22年6月30日現在

従業員数(名)	1,610	(515)
---------	-------	-------

(注) 1 従業員数は、就業人員であります。

2 従業員数欄の（外書）は、臨時従業員の当第1四半期連結会計期間の平均雇用人員であります。

3 臨時従業員には、パートタイマーを含み、派遣社員を除いています。

(2) 提出会社の状況

平成22年6月30日現在

従業員数(名)	489
---------	-----

(注) 従業員数は、就業人員であります。

第2 【事業の状況】

1 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

該当事項はありません。

(2) 受注実績

受注実績の金額を算出できない為「4 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー状況の分析」に記載しております。

(3) 販売実績

当第1四半期連結会計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	売上高(千円)	前年同四半期比(%)
物流事業	5,359,797	—
倉庫部門	696,295	—
港湾フォワーディング部門	1,553,911	—
運輸部門	2,770,812	—
3PL(サードパーティーロジスティクス)部門	338,778	—
不動産事業	841,670	—
印刷事業	3,689,768	—
その他	146,222	—
計	10,037,458	—
セグメント間の内部売上	△418,830	—
合計	9,618,628	—

(注) 1 主な相手先別の販売実績及び総販売実績に対する割合は、次のとおりであります。

相手先	前第1四半期連結会計期間		当第1四半期連結会計期間	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
株式会社読売新聞東京本社	1,242,664	12.0	1,195,229	12.4
JFE物流株式会社	—	—	1,012,755	10.5

2 前第1四半期連結会計期間のJFE物流株式会社につきましては、当該割合が100分の10未満のため記載を省略しております。

3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 【事業等のリスク】

当第1四半期連結会計期間における、本四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当第1四半期連結会計期間におけるわが国経済は、輸出の緩やかな増加が続き、また、生産、企業収益および個人消費に改善が見られるなど景気は自律的な回復へ向かうことが期待されますが、一方で雇用情勢には厳しさが残り、また、欧州を中心とした海外景気の下振れ、金融資本市場の変動およびデフレの影響などの懸念が残り、依然として予断を許さない状況となっております。

このような経済情勢のなか、第1四半期連結会計期間の業績につきましては、物流事業においてメーカーが増産に転じ徐々に持ち直しつつあるものの未だ厳しい状況が続くなか、全般的な貨物量に改善が見られ売上高は前年同期に比べ増加しております。

不動産事業においては賃貸物件の解約や更新時の料金改定により売上高は前年同期に比べ減少しております。

印刷事業においては印刷機更新による作業工程の変更や発行部数の減少により売上高は前年同期に比べ減少しております。

この結果、第1四半期連結会計期間の売上高は、9,618百万円（前年同四半期比7.3%減）、営業利益は169百万円（前年同四半期比40.6%減）、経常利益は73百万円（前年同四半期比56.3%減）、四半期純損失は90百万円（前年同四半期は四半期純利益4百万円）といずれも前年同四半期を下回る結果となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

①物流事業

当事業のうち、倉庫部門につきましては各地の物流センターの取扱い量の回復が遅く、売上高は696百万円となりました。港湾フォワーディング部門につきましては、出荷量が徐々に増え、保管残高は減ったものの荷動きの改善により、売上高は1,553百万円となりました。運輸部門につきましては、メーカーの増産による貨物量の改善により、売上高は2,770百万円となりました。3PL（サードパーティロジスティクス）部門につきましては、物流センターにおける出庫量が堅調に推移し、売上高は338百万円となりました。この結果、当事業の売上高は5,359百万円、営業利益は401百万円となりました。

②不動産事業

当事業につきましては、昨年度において一部の賃貸物件に中途解約が発生し、また更新時の料金改定などにより、売上高は841百万円、営業利益は359百万円となりました。

③印刷事業

当事業につきましては、婚礼印刷の受注の落ち込みや新聞印刷の発行部数の減少、新聞印刷機更新による作業工程の変更の影響を受け、売上高は3,689百万円、売上原価及び販売管理費の低減により営業利益は2百万円となりました。

④その他

当事業につきましては、工事関連の取扱量が減ったことにより、売上高は146百万円、営業利益は2百万円となりました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末に比べ169百万円減少し、57,268百万円となりました。主な増減は、現金及び預金が459百万円増加した一方、売上高の減少により受取手形及び売掛金が240百万円、減価償却費等により建物及び構築物が211百万円、株価変動により投資有価証券が273百万円減少しております。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ195百万円増加し、47,083百万円となりました。主な増減は、機械設備更新のため流動負債のその他（設備支払手形）が234百万円、短期借入金が468百万円増加した一方、納税により未払法人税等が395百万円減少しております。

純資産合計は、利益剰余金が203百万円、その他有価証券評価差額金が165百万円減少し、前連結会計年度末より364百万円減少し、10,185百万円となり、自己資本比率は17.6%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末より461百万円増加し、4,230百万円（前年同四半期比22.4%増）となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によって得られた資金は、573百万円（前年同四半期比53.3%減）となりました。

この主な要因は、減価償却費434百万円、仕入債務の増加額711百万円、賞与引当金の減少額324百万円、法人税等の支払額681百万円などであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により使用された資金は、367百万円（前年同四半期は342百万円の使用）となりました。

この主な要因は、有形固定資産の取得による支出340百万円などであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によって得られた資金は、255百万円（前年同四半期は221百万円の使用）となりました。

この主な要因は、短期借入金の純増額400百万円、配当金の支払額113百万円などであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結会計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

第3 【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第1四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

前連結会計年度末に計画中であったアサガミプレスセンター株式会社の輪転機設備更新工事につきましては、平成22年4月に一部完了いたしました。

また、当第1四半期連結会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、除却等はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	48,720,000
計	48,720,000

② 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成22年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成22年8月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	14,180,000	14,180,000	東京証券取引所 市場第2部	単元株式数は1,000 株であります。
計	14,180,000	14,180,000	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成22年6月30日	—	14,180,000	—	2,189,000	—	32,991

(6) 【大株主の状況】

大量保有報告書の写しの送付がなく、当第1四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成22年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成22年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 20,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 14,120,000	14,120	—
単元未満株式	普通株式 40,000	—	—
発行済株式総数	14,180,000	—	—
総株主の議決権	—	14,120	—

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式9,000株(議決権9個)含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当者所有の自己株式997株が含まれております。

② 【自己株式等】

平成22年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) アサガミ株式会社	東京都千代田区大手町2-6-2	20,000	—	20,000	0.1
計	—	20,000	—	20,000	0.1

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成22年 4月	5月	6月
最高(円)	343	335	323
最低(円)	318	315	300

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第2部におけるものであります。

3 【役員状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期報告書提出日までの役員の異動は、次のとおりであります。

(1) 役職の異動

新役名及び職名	旧役名及び職名	氏名	異動年月日
取締役、執行役員、営業副本部長、 港湾・通関部長	取締役、執行役員、営業副本部長、 市原支店長、港湾・通関部長	川上 龍一	平成22年6月24日

第5 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前第1四半期連結会計期間（平成21年4月1日から平成21年6月30日まで）及び前第1四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年6月30日まで）は、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第1四半期連結会計期間（平成22年4月1日から平成22年6月30日まで）及び当第1四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年6月30日まで）は、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第1四半期連結会計期間（平成21年4月1日から平成21年6月30日まで）及び前第1四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表並びに当第1四半期連結会計期間（平成22年4月1日から平成22年6月30日まで）及び当第1四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、公認会計士 野末昭孝氏及び公認会計士 本橋清彦氏により四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,230,254	3,770,549
受取手形及び売掛金	5,433,181	5,673,974
商品及び製品	54,048	53,908
仕掛品	37,791	15,455
原材料及び貯蔵品	744,374	693,649
繰延税金資産	467,426	332,089
その他	712,062	716,311
貸倒引当金	△37,892	△40,611
流動資産合計	11,641,246	11,215,327
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	※1 14,105,314	※1 14,317,123
機械装置及び運搬具（純額）	※1 1,441,136	※1 1,093,409
土地	20,494,980	20,494,980
その他（純額）	※1 1,948,261	※1 2,406,231
有形固定資産合計	37,989,692	38,311,744
無形固定資産		
のれん	775,085	858,557
借地権	1,133,814	1,133,814
その他	138,735	141,510
無形固定資産合計	2,047,636	2,133,883
投資その他の資産		
投資有価証券	※3 2,029,491	※3 2,303,446
長期貸付金	1,064,895	1,083,203
繰延税金資産	952,758	851,491
その他	2,330,343	2,362,634
貸倒引当金	△787,088	△823,441
投資その他の資産合計	5,590,400	5,777,334
固定資産合計	45,627,729	46,222,963
資産合計	57,268,976	57,438,290

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,025,778	4,056,081
短期借入金	8,747,505	8,278,540
1年内償還予定の社債	731,280	731,280
未払法人税等	229,518	624,569
賞与引当金	164,417	488,945
その他	2,921,840	2,283,927
流動負債合計	16,820,339	16,463,343
固定負債		
社債	2,108,640	2,108,640
長期借入金	20,563,460	20,663,260
再評価に係る繰延税金負債	3,398,391	3,398,391
繰延税金負債	181	120
退職給付引当金	1,469,442	1,450,500
役員退職慰労引当金	905,424	891,191
資産除去債務	23,379	—
長期預り金	1,418,026	1,479,418
その他	376,102	433,179
固定負債合計	30,263,048	30,424,702
負債合計	47,083,387	46,888,046
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,189,000	2,189,000
資本剰余金	32,991	32,991
利益剰余金	3,289,954	3,493,592
自己株式	△7,917	△7,867
株主資本合計	5,504,027	5,707,716
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	178,596	343,632
土地再評価差額金	4,403,013	4,403,013
評価・換算差額等合計	4,581,609	4,746,645
少数株主持分	99,950	95,882
純資産合計	10,185,588	10,550,244
負債純資産合計	57,268,976	57,438,290

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
売上高	※1 10,373,908	※1 9,618,628
売上原価	※1 8,346,593	※1 7,746,146
売上総利益	2,027,315	1,872,482
販売費及び一般管理費		
役員報酬	124,114	118,192
給料及び手当	615,978	611,180
賞与	90,887	96,938
退職給付費用	15,835	37,611
役員退職慰労引当金繰入額	13,925	14,233
その他	881,808	825,188
販売費及び一般管理費合計	1,742,549	1,703,345
営業利益	284,765	169,136
営業外収益		
受取利息	7,930	7,855
受取配当金	26,590	34,374
その他	31,004	29,184
営業外収益合計	65,525	71,413
営業外費用		
支払利息	152,953	138,058
開業費償却	7,343	—
社債利息	7,928	6,525
その他	13,176	22,139
営業外費用合計	181,402	166,723
経常利益	168,888	73,827
特別利益		
固定資産売却益	42,618	—
保険差益	17,847	—
貸倒引当金戻入額	156	16,095
特別利益合計	60,623	16,095
特別損失		
固定資産売却損	15,847	—
固定資産除却損	16,209	7,144
投資有価証券評価損	15,499	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	7,626
特別損失合計	47,556	14,770
税金等調整前四半期純利益	181,955	75,152
法人税、住民税及び事業税	384,820	286,254
法人税等調整額	△210,907	△124,804
法人税等合計	173,912	161,450
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	—	△86,297
少数株主利益	3,916	4,068
四半期純利益又は四半期純損失(△)	4,125	△90,366

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	181,955	75,152
減価償却費	459,965	434,717
繰延資産償却額	7,343	—
のれん償却額	100,768	83,472
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	7,626
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	87,426	△39,071
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△310,978	△324,527
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	13,797	18,941
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△9,824	14,233
受取利息及び受取配当金	△34,520	△42,229
支払利息	160,881	144,584
為替差損益 (△は益)	△131	652
固定資産売却損益 (△は益)	△26,771	—
固定資産除却損	16,209	7,144
投資有価証券評価損益 (△は益)	15,499	—
保険差益	△17,847	—
売上債権の増減額 (△は増加)	1,158,663	240,792
たな卸資産の増減額 (△は増加)	47,359	△73,201
仕入債務の増減額 (△は減少)	△206,425	711,633
未払消費税等の増減額 (△は減少)	30,353	14,225
その他	19,717	80,177
小計	1,693,441	1,354,323
利息及び配当金の受取額	34,096	41,622
利息の支払額	△158,106	△141,577
保険金の受取額	35,205	—
法人税等の支払額	△377,015	△681,305
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,227,621	573,063
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	—	△0
定期預金の払戻による収入	—	1,476
有形固定資産の取得による支出	△268,599	△340,776
有形固定資産の売却による収入	33,139	7,208
固定資産の除却による支出	△14,000	△702
無形固定資産の取得による支出	△5,993	△4,344
投資有価証券の取得による支出	△7,707	△2,819
敷金及び保証金の差入による支出	△1,326	△5,237
敷金及び保証金の回収による収入	909	2,648
貸付けによる支出	△3,000	—
貸付金の回収による収入	18,102	12,414
長期預り金の返還による支出	△123,074	△82,621
長期預り金の受入による収入	43,728	1,229
その他	△14,268	44,452
投資活動によるキャッシュ・フロー	△342,089	△367,073

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	—	400,000
長期借入れによる収入	1,995,000	2,030,000
長期借入金の返済による支出	△2,012,005	△2,060,835
社債の償還による支出	△91,700	—
自己株式の取得による支出	—	△50
配当金の支払額	△113,287	△113,272
財務活動によるキャッシュ・フロー	△221,992	255,842
現金及び現金同等物に係る換算差額	131	△652
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	663,671	461,180
現金及び現金同等物の期首残高	2,791,065	3,769,073
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 3,454,737	※1 4,230,254

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

当第1四半期連結会計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)
会計処理基準に関する事項の変更 当第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。 これにより、営業利益、経常利益はそれぞれ509千円、税金等調整前四半期純利益、少数株主損益調整前四半期純利益はそれぞれ8,136千円減少しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は23,379千円であります。

【表示方法の変更】

当第1四半期連結会計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)
(四半期連結損益計算書関係) 「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づく財務諸表等規則等の一部を改正する内閣府令(平成21年3月24日 内閣府令第5号)の適用に伴い、当第1四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目を表示しております。

【簡便な会計処理】

当第1四半期連結会計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)
(1) 棚卸資産の評価方法 当第1四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、一部の子会社を除き実地棚卸を省略し、前連結会計年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。 また、棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。
(2) 固定資産の減価償却費の算定方法 定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末 (平成22年3月31日)												
<p>※1 有形固定資産の減価償却累計額 27,548,870千円</p> <p>2 偶発債務 (1) 債務保証 連結子会社以外の会社の金融機関からの借入に対し債務保証を行っております。 (株)オーエコーポレーション 881,500千円 (2) 訴訟関係 千葉地区の作業現場における転落事故による損害賠償訴訟を提起されています。なお、現在争点整理中であり、当社が負担することになる損害の有無、損害金については、現時点で予測することは困難であります。 (3) 手形割引高 受取手形割引高 11,553千円</p> <p>※3 貸付有価証券 投資有価証券には、有価証券消費貸借契約に基づく貸付有価証券が257,040千円が含まれております。</p> <p>4 貸出コミットメント契約 当社の連結子会社であるアサガミプレスセンター(株)において、設備投資資金の調達を行うため、取引銀行1行と貸出コミットメント契約を締結しております。この契約に基づく当四半期連結会計期間末の借入実行残高は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">貸出コミットメントの総額</td> <td style="text-align: right;">450,000千円</td> </tr> <tr> <td>借入実行額</td> <td style="text-align: right;">200,000千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">差引額</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">250,000千円</td> </tr> </table> <p>5 財務制限条項 当社の連結子会社であるアサガミプレスセンター(株)が締結している貸出コミットメント契約には以下の財務制限条項が付されており、当該条項に抵触した場合には、契約上のすべての債務について期限の利益を喪失する可能性があります。 ①各年度決算期の末日における当社の損益計算書及び連結損益計算書の経常損益の金額をマイナスとしないこと。 ②各年度決算期の末日におけるアサガミプレスセンター(株)の貸借対照表の純資産の部の合計額を平成21年3月期決算末日または前年度決算末日の純資産の部の合計のいずれか大きいほうの70%以上維持すること。 ③各年度決算期の末日におけるアサガミプレスセンター(株)の損益計算書の税引後当期純利益の金額をマイナスとしないこと。</p>	貸出コミットメントの総額	450,000千円	借入実行額	200,000千円	差引額	250,000千円	<p>※1 有形固定資産の減価償却累計額 27,147,749千円</p> <p>2 偶発債務 (1) 債務保証 連結子会社以外の会社の金融機関からの借入に対し債務保証を行っております。 (株)オーエコーポレーション 889,250千円 (2) 訴訟関係 千葉地区の作業現場における転落事故による損害賠償訴訟を提起されています。なお、現在争点整理中であり、当社が負担することになる損害の有無、損害金については、現時点で予測することは困難であります。 (3) 手形割引高 受取手形割引高 10,000千円</p> <p>※3 貸付有価証券 投資有価証券には、有価証券消費貸借契約に基づく貸付有価証券が346,248千円が含まれております。</p> <p>4 貸出コミットメント契約 当社の連結子会社であるアサガミプレスセンター(株)において、設備投資資金の調達を行うため、取引銀行1行と貸出コミットメント契約を締結しております。この契約に基づく当連結会計年度末の借入実行残高は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">貸出コミットメントの総額</td> <td style="text-align: right;">450,000千円</td> </tr> <tr> <td>借入実行額</td> <td style="text-align: right;">200,000千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">差引額</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">250,000千円</td> </tr> </table> <p>5 財務制限条項 当社の連結子会社であるアサガミプレスセンター(株)が締結している貸出コミットメント契約には以下の財務制限条項が付されており、当該条項に抵触した場合には、契約上のすべての債務について期限の利益を喪失する可能性があります。 ①各年度決算期の末日における当社の損益計算書及び連結損益計算書の経常損益の金額をマイナスとしないこと。 ②各年度決算期の末日におけるアサガミプレスセンター(株)の貸借対照表の純資産の部の合計額を平成21年3月期決算末日または前年度決算末日の純資産の部の合計のいずれか大きいほうの70%以上維持すること。 ③各年度決算期の末日におけるアサガミプレスセンター(株)の損益計算書の税引後当期純利益の金額をマイナスとしないこと。</p>	貸出コミットメントの総額	450,000千円	借入実行額	200,000千円	差引額	250,000千円
貸出コミットメントの総額	450,000千円												
借入実行額	200,000千円												
差引額	250,000千円												
貸出コミットメントの総額	450,000千円												
借入実行額	200,000千円												
差引額	250,000千円												

(四半期連結損益計算書関係)

第1四半期連結累計期間

前第1四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)
※1 一部の子会社の売上高は、通常の営業形態として下期に受注が集中するため、第1四半期連結会計期間の売上高及び営業費用が下期と比較して著しく少くなる傾向にあります。	※1 左のとおりであります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第1四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)
※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係	※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係
現金及び預金 3,456,211千円 預入期間が3ヶ月超の定期預金 Δ 1,473千円 現金及び現金同等物 <u>3,454,737千円</u>	現金及び預金 4,230,254千円 預入期間が3ヶ月超の定期預金 ー千円 現金及び現金同等物 <u>4,230,254千円</u>

(株主資本等関係)

当第1四半期連結会計期間末(平成22年6月30日)及び当第1四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当第1四半期 連結会計期間末
普通株式(株)	14,180,000

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当第1四半期 連結会計期間末
普通株式(株)	21,147

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月24日 定時株主総会	普通株式	113,272	8	平成22年3月31日	平成22年6月25日	利益剰余金

(2) 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【事業の種類別セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年6月30日)

	物流事業 (千円)	不動産事業 (千円)	印刷事業 (千円)	販売事業 (千円)	その他事業 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高								
(1)外部顧客に対する 売上高	4,787,716	811,305	3,907,694	715,083	152,108	10,373,908	—	10,373,908
(2)セグメント間の内 部売上高又は振替 高	4,853	367,925	—	—	—	372,778	(372,778)	—
計	4,792,570	1,179,230	3,907,694	715,083	152,108	10,746,687	(372,778)	10,373,908
営業利益又は営業損失 (△)	364,069	490,104	△22,276	△5,657	8,357	834,597	(549,832)	284,765

(注) 1 事業の区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2 各区分の主な内容は次のとおりであります。

- (1) 物流事業 港湾運送、海上運送、通関、倉庫、陸上運送、荷役
- (2) 不動産事業 土地建物賃貸
- (3) 印刷事業 印刷業
- (4) 販売事業 物品販売
- (5) その他事業 建築工事、その他

3 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載のとおり、当第1四半期連結累計期間より、「工事契約に関する会計基準」(企業会計基準第15号平成19年12月27日)及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第18号平成19年12月27日)を適用しております。この結果、従来の方法と比較して、その他事業の売上高は38,562千円増加し、営業利益14,412千円増加しております。

【所在地別セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年6月30日)

全セグメントの売上高の合計に占める日本の割合が、90%を超えるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

【海外売上高】

前第1四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年6月30日)

該当事項はありません。

【セグメント情報】

(追加情報)

当第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、サービスの種類別のセグメントから構成され、主に「物流事業」、「不動産事業」、「印刷事業」の事業活動を展開しており、当社及びグループ会社が構成するこれら事業の種類別の区分により、当社及びグループ会社ごとに経営を管理しております。

したがって当社グループは、事業別のセグメントから構成されており、「物流事業」、「不動産事業」、「印刷事業」の3つを報告セグメントとしております。

「物流事業」は港湾及び海上運送業、通関業、倉庫業、陸上運送業などを行っております。「不動産事業」は不動産等の賃貸及び管理業を行っております。「印刷事業」は新聞印刷業及び年賀・婚礼印刷業を行っております。

2 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第1四半期連結累計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日）

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	物流事業	不動産事業	印刷事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	5,358,838	462,401	3,689,368	9,510,608	108,019	9,618,628
セグメント間の内部売上高又は振替高	958	379,269	400	380,628	38,202	418,830
計	5,359,797	841,670	3,689,768	9,891,236	146,222	10,037,458
セグメント利益	401,258	359,024	2,814	763,097	2,649	765,746

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、建築工事事業及び人材派遣事業を含んでおります。

3 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差額調整に関する事項）

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	763,097
「その他」の区分の利益	2,649
セグメント間取引消去	△79,683
全社費用（注）	△516,926
四半期連結損益計算書の営業利益	169,136

(注) 全社費用は、親会社本社の管理部門に係る費用であります。

4 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1 1株当たり純資産額

当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末 (平成22年3月31日)
1株当たり純資産額 712.32円	1株当たり純資産額 738.35円

(注) 1株当たり純資産額の算定上の基礎

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末 (平成22年3月31日)
純資産額の合計額(千円)	10,185,588	10,550,244
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	99,950	95,882
(うち少数株主持分)(千円)	(99,950)	(95,882)
普通株式に係る純資産額(千円)	10,085,637	10,454,361
1株当たり純資産額の算定に用いられた四半期連結会計期間期末(連結会計年度末)の普通株式の数(株)	14,158,853	14,159,003

2 1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額
第1四半期連結累計期間

前第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額 0.29円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。	1株当たり四半期純損失金額 6.38円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式がないこと、また1株当たり四半期純損失のため記載しておりません。

(注) 1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額の算定上の基礎

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)(千円)	4,125	△90,366
普通株式に係る四半期純利益又は四半期純損失(△)(千円)	4,125	△90,366
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式の期中平均株式数(株)	14,160,878	14,158,928

(重要な後発事象)

当第1四半期連結会計期間(自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年 8月12日

アサガミ株式会社
取締役会 御中

野末公認会計士事務所

公認会計士 野 末 昭 孝 印

本橋公認会計士事務所

公認会計士 本 橋 清 彦 印

私たちは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているアサガミ株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成21年4月1日から平成21年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成21年4月1日から平成21年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、私たちの責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

私たちは、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

私たちが実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、アサガミ株式会社及び連結子会社の平成21年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と私たちの間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年 8月10日

アサガミ株式会社
取締役会 御中

野末公認会計士事務所

公認会計士 野 末 昭 孝 印

本橋公認会計士事務所

公認会計士 本 橋 清 彦 印

私たちは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているアサガミ株式会社の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成22年4月1日から平成22年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成22年4月1日から平成22年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、私たちの責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

私たちは、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

私たちが実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、アサガミ株式会社及び連結子会社の平成22年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と私たちの間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成22年8月13日
【会社名】	アサガミ株式会社
【英訳名】	ASAGAMI CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 木村 健一
【最高財務責任者の役職氏名】	該当なし
【本店の所在の場所】	東京都千代田区大手町二丁目6番2号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長木村健一は、当社の第89期第1四半期(自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。